

私が初めてカンボジアに来たのが1992年、務めていた会社を退職して NGO のスタッフとして自衛隊が PKO で入るちょっと前のカンボジアに来て以来、外国人が行かないような地方を中心に学校を作ったりしてましたので、カンボジアの人たちの生の生活をよく理解できてると思っていました。でも、こうしてマイクロファイナンスを始めてから、対象地域は首都プノンペンの近郊ではありますが、以前の NGO 時代にも見えなかった、もっと生々しいカンボジアの人たちの生活、それぞれ台所の裏まで知ることができるようになりました。

貸付の審査に私も時々同行しますが、そこでまさしく本当の貧困の原因が何なのかを見る機会も多く、わずかな融資で生活レベルを改善できるマイクロファイナンスの醍醐味をひしひしと感じ、そして、まだまだこの国の本当の自立にはマイクロファイナンスが必要なものと強く感じるができます。

あわせて、普段市場でなにげなく手にしているものがどんな経緯をたどってきたのかを見ることもできる、それも役得です。

今回ご紹介するのは、調味料を卸売する「シターさん」です。



どこの家にもある塩、いつも私もスーパーで買ってる、まさにこの黄色のパッケージの塩がこれです。タイから輸入されてくる左の写真のような 20kg 入の袋から塩を取り出して、200g とか 500g とかの小さな袋に詰め替えて再パッケージしたものを、市場やスーパーに卸しているということです。

この塩をタイから輸入するライセンスを持つ元締めと購入契約を行うと同時にこれらを卸す地域も保証されるということで、プノン



ペン市内にはシターさんのような卸売業者が何人かいるそうです。シターさんが卸売する小売業者のエリアはプノンペンの北西一帯だそうです。

ご主人がリヤカー付きのバイクでタイ国境近くの元締めの倉庫から塩や調味料などをはるばる運んできて、それをシターさんが小分けして、それをまたご主人が各小売店に運ぶ、そんな風にご夫婦で協力しながら子供 4 人を育てています。

一番上の子が今年は高校卒業なので、大学に通えるように頑張らないと、ということで、ライ

スマで追加の商品購入のための予算を融資させていただいています。ご長男も頑張って大学卒業して親孝行してくれるものと思います。

2020年04月01日

磯部正広



左から、私、シターさん、ご主人、ライスマ・マネージャー、担当スタッフ